

【取扱い厳重注意】

平成24年2月28日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 飯崎 準

平成24年2月27日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

福島県相双地方振興局県民環境部副部長兼県民生活課長 高田義宏
(原子力災害現地対策本部住民安全班長)

2 聴取日時

平成24年2月27日午後2時00分から同日午後3時20分まで

3 聴取場所

福島県庁

4 聴取者

飯崎補佐

※ 複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

5 ICレコーダーによる録音の有無等

 あり なし (理由: (「対象者の希望による。」など簡潔に記載))

第2 聴取内容

OFCにおける病院・要介護施設等の避難確認状況等について
別紙のとおり

第3 特記事項

なし

以上

【取扱い厳重注意】

別紙

1 被聴取者の身分

高田福島県相双地方振興局県民環境部副部長は、国の原子力災害現地対策本部の住民安全班長として、避難誘導の調整等を担当している者である。

2 福島第一原発から半径20km圏内の病院・要介護施設等に対する避難概況

当時、OFC住民安全班は、避難範囲に入った町・村役場から避難の進捗を聴取し、聞き取った内容をホワイトボードに書き込みながら避難状況をまとめていた。ただし、通信状況が悪かったこともあり、正確な情報が適時に入っていたわけではなかった。

病院の避難状況については、3/13の13時からのOFC全体会議資料の中に、「老健ドヴィル双葉100人及び双葉病院81人であり、自衛隊バスで搬送予定」との記載がある（別添1）。通常、会議資料に入っている情報は、その数時間前には把握していた情報だったので、遅くとも3/13の午前中の段階では、双葉病院及びドヴィル双葉に患者が残っているとの情報をOFCで把握していたことになる。全体会議には、池田本部長以下幹部全員が参加していたので、この段階で、池田本部長も取り残された患者がいたことを把握していたはずである。

私の記憶では、3/12の段階でも、双葉病院に人が残っているということを聞いたように覚えており、ERC住民安全班からだったと思うが、「重篤な患者は無理に動かすよりもそのままにしておいたほうが良い」との話があり、3/12の時点では、OFCにおいて何らの対策も取らなかったように記憶している。

3/13になって、自衛隊バスで搬送予定という情報が入ったので、「やはり避難させることにしたのか」という感想を持ったように記憶している。

3/14の午前5時27分にERCから「双葉地域の要救助者リスト」がFAXされ、これを見て初めてOFCでも全体の状況が判明した（別添2）。ただ、このリストに載っている人数は、実際にOFCで把握していた人数と異なるものもあり、おそらく、このリストは、平時において把握していた入院患者数や職員数を基に作られたものではないかと思う。このリストは、ERCが関係省庁等から情報をまとめて作ったのか、官邸で作ったのかどちらかだと思う。

3/14 15:34には、「住民避難の状況について（14時20分現在残留者数）」がERCからOFCにFAXされたが、この中に、福島県情報として、「双葉病院 全員終了」との記載がある（別添3）。

実は、この頃、OFCでは、参集していた警察官から警察無線による情報を得ていたが、この中で、「双葉病院における避難が完了（又は完了の見込み）」との情報が何度か入ったように覚えている。双葉病院に関しては、情報が錯そうしており、このERCからのFAXも、情報の錯そうにより生じたものではないか。

3 OFCにおける対応について

OFC近隣に住民が残っているとの通報を受け、OFCに参集していた双葉署の警察官や双葉広域消防の消防官が置き去りになった住民の救援活動を行っていた。

OFCには、自衛隊も派遣されていたが、派遣されていた部隊は、第一原発のプラント

【取扱い厳重注意】

回りの対策のために派遣されていたようで、OFCにいる自衛官に避難の要請をしても、「部隊が異なるのでできない」と拒否され、調整すらしてもらえなかった。

そこで、県庁に設置されている対策本部に電話をかけ、対策本部経由で自衛隊への要請を行ってもらおうようにした。

4 3/15の双葉病院からの搬送状況とOFCの撤退について

3/14の搬送では、双葉病院から全員を避難させることができなかったことから、私は、OFCにいる自衛官に、救助活動をしている部隊名と電話番号を調べてもらい、12旅団が活動していることが分かったため、電話をして、残留者の避難を行う予定を問い合わせた。その結果、「明日(3/15)引き続き行う」との回答があった。

この頃になると、OFC内の線量もかなり高くなっており、外で800 μ Sv/hが出たらしく、室内でも、ちょうど私が座っていた位置からデジタル表記の線量計が見えるのだが、右肩上がりに線量が上昇して数十 μ Sv/hになっていったため、このままここで死んでしまうのではないかとさえ感じていた。

そのうち、OFC撤退のための先遣隊として、副知事等が県庁に向けて出発したところ、私の感覚では、先遣隊が出ても100人くらいはOFCに残るはずなのに、それが50人くらいになってしまい、相当数が逃げ出したように記憶している。

自衛隊による救助は9時頃からだと聞いていたので、3/15の午前7時半から8時頃だったと思うが、私と警察から来ている住民安全班員の齊藤さんとで双葉病院に向かったところ、医師・看護師等がない中、患者だけが病院に取り残されており、広場のようなスペースにベットが集められたり、車いすの人は車いすのまま残っているような状態であった。

そのうち、自衛隊の部隊が到着し、搬送活動を開始したため、私は一旦OFCに戻ってその状況を報告し、再び双葉病院に戻って搬送活動の手伝い等をしていた。私と齊藤さんは、11時半頃まで搬送活動の現場にいたが、OFCは11時に撤退することが決まっていたため、今からOFCに戻っても誰もいないことが分かっていたので、乗ってきた車両でそのまま県庁へと向かっていった。したがって、私を含めOFC要員は全員引き上げたため、搬送活動が終わるまで双葉病院に残っていたわけではない。

県庁へ向かう道中で、私は第12旅団に電話をかけ、搬送活動がどうなったか問い合わせたところ、終了したとの回答があったため、双葉病院での救出活動は完了したものだと思い、県庁でその旨を報告している。

私は、最近刷られた福島民報の特集記事を見るまで、3/16も引き続き救出活動が行われていたということを知らなかった。

5 いわき光洋高校での患者搬送状況について

3/16の朝、相双保健福祉事務所の笹原副所長(保健所長)から電話があり、「双葉病院とドーヴィル双葉から、設備の整っていないバスで患者が運ばれてきた。スクリーニングをした後、いわきへ運ばれていったが、どうなっているんだ。スクリーニングをする必要があるのか。何故いわきへ運ぶんだ」という苦情めいた内容をかなり激高した様子で話されたため、「言わんとしていることがよく分からないので、紙に書いて送ってほしい」と伝えた結果、「いわき光洋高校に搬送された避難者の死亡事件について(第

【取扱い厳重注意】

一報)」が送られてきた（別添4）。

笹原副所長が言いたかったのは、要するに、「何故病院関係者が同乗していないのか」ということと、「重篤な患者を遠く離れたしかも高校に運んでどうするんだ」という2点であった。

私の方で、このペーパーを基に状況を説明する報告書を作成（別添5）し、OFC 幹部に報告している。後に、このペーパーを基にして、県災対本部がプレスリリースをしたということを聞いている。

以 上

◆避難及び広報状況 1

平成23年3月13日 13:00現在

避難等の内容	町名	人口	避難先	避難手段	避難状況・広報状況
避難(20km圏) 1F・2F	富岡町	15,786人	川内村役場 二本松市男女共生センター	バス等	16,000人程度のうち、残は今村病院の52人であり、自衛隊への搬送は、本松市男女共生センターへ、消防による避難拒否の話をあつた。消防団、詳細は不明。
避難(20km圏) 1F・2F	大熊町	11,186人	都路中学校 常葉村中学校 田舎総合体育館	バス 自衛隊等	4,000人程度のうち、残は老健ドーナヴィル、双葉100人及びびびり、残は老健ドーナヴィル、自衛隊バスで搬送予定、無線問を実施。消防団による全戸訪問は、原則として実施。
避難(20km圏) 1F	双葉町	6,936人	川俣小学校 日本開校 男女共生センター	バス等	2,000人程度のうち、残は双葉厚生病院の女生徒、自衛隊搬送中。
避難(20km圏) 1F	浪江町	20,695人	津島活性化センター 津島支所 津島小中学校 野野野公民館 野野野公民館 野野野公民館 野野野公民館	バス等	17,000人程度について、避難はほぼ終了している。広報は、防災行政無線等 野野野公民館
避難(20km圏) 1F・2F	榎葉町	7,851人	草野中学校 平野中央 いわき南中学校	バス等	7,800人程度について、避難はほぼ終了している。なお、避難拒否の話をあつた。消防団による全戸訪問は、原則として実施。
避難(10km圏) 2F	広野町	5,387人	平田村公民館 磐城高等専門学校	バス等	避難対象は、5区818人も町内全域避難予定。270人中、150人避難済み。広報は、防災行政無線や広報車等

25
10

25
10

小高あかさが病院	南相馬市小高区	患者60名 職員21名	XXXXXXXXXX XXXXXXXXXX	いわき光洋高校 予定
南相馬市立小高病院		患者67名 職員36名	0264-04-2025 双葉地区	いわき光洋高校 予定
西病院	浪江町穂波 下柳町-6	寝たきり 87名 職員18名	XXXXXXXXXX	いわき光洋高校 予定
法人双葉病院	大熊町新町176-1	80 98名	XXXXXXXXXX	いわき光洋高校 予定
介護サービスセンター 一ヒル双葉	大熊町新町76-1 *双葉病院と300m	100 99名		雅詩来 和山 XXXXXXXXXX
(特老) ホッパール双葉	浪江町赤松八合田 134	入所者280-300 名	いばら市	双葉町小高地区 双葉地区
(特老) ひまわり荘	浪江町大字加倉字 今神78	入所者130名		太陽の園

双葉地区の要救助者リスト

相双保健センター 双葉地区 各施設へ搬送

双葉地区 各施設へ搬送

024
025
511

双葉地区
双葉地区

双葉地区

住民避難の状況について(14時20分現在残留者数)

施設名	残留者数 (14:20現在)	備考
浪江西病院	75	状況確認中
ドーザイル双葉	0	100名全員移動終了(相双保護所)
双葉病院	48	状況確認中(33名は相双保護所に到着)
10km圏内合計	123	(確認中)
オンフール双葉	279	状況確認中
小坂あかさか病院	60	状況確認中
20km圏内合計	488	(確認中)

この他、棟数名が自主的に自宅に屋内待避している模様。それ以外の方々については、おおむね避難を終了。

OFC住民班 夕ヶ塚 ← ERCC住民班 五木
集からの情報と異なっている為、内容の確認を願います。

要確認

福島県
OFC
ヘリが向かっている
100名終了
全員終了
48程度(確認中)屋内待避
279屋内待避
全員終了
自衛隊が向かっている
81移動中。行き先不明。

確認中とした理由

県とOFCで情報異なるため

オフサイトセンター 住民避難安全班 高田様
 (Fax [redacted]) 本文中 5 の表部の差し換えをお願いします。
 (次ページ)

いわき光洋高校に搬送された避難者の死亡事件について (第1報)

相双保健福祉事務所

平成23年3月16日 6:00現在

- 1 受信日時
平成23年3月16日
- 2 発信者
いわき地方振興局 千葉
- 3 受信者
相双保健福祉事務所 副所長 佐原賢司
- 4 受信内容

相双保健福祉事務所から、いわき光洋高校に搬送された避難者のうち、3月15日(火)3:00現在で12名の方が亡くなった。このうち、3月15日20:00に1名、3月16日に1名が亡くなったが、大半の人はいわき光洋高校に搬送されてきた時点で亡くなっていた。

どうしてこの状態で連れてこられたのだろう。

亡くなった人の一部については医師が死亡診断書を書いた。

双葉病院のスタッフは先に避難したと思われる。

現在は、いわき本部の事務方4名とボランティア2名で世話をしている。

いわき光洋高校体育館の2階に精神疾患の人と一般人を収容している。1階には要介護(具合が悪い)の人を収容している。亡くなられた方は1階にパーテーションをつくり安置している。

本件については、いわき合同庁舎対策班本部([redacted])で一元的に対策を立てている。

いわき光洋高校到着時及びそれ以降の経過については次の通りであった。

3月14日(月)夜に双葉病院、ドービル双葉の避難者(患者)到着

3月15日(火)朝に双葉厚生病院の一部外来者と浪江町民が到着、その際相双保健福祉事務所の職員が同乗していたが、乗ってきたバスに同乗して帰った。体育館に来てみたら入院医療従事者がいなかった。このことを高校長がラジオ(コミュニティFM)で訴えると同時に、いわき災害対策本部に搬送先等はどうなっているのかを聞いた。

ラジオを開いた、かしま病院の看護師2名が来て確認してみるとカルテもない状態であった。

本日(15日)午前中に双葉病院の患者をトリアージし、福島医大に20名(男2、女18)、県立会津病院に20名(男9、女11)、竹田総合病院に15名、会津西病院に25名(男7、女18)の合計80名(双葉病院とドービル双葉の入院者)について、夕方に搬送された(常交バスで1台(20名)は医大へ、残り2台は会津方面に搬送)。

5 避難者が相双保健福祉事務所到着からいわき光洋高校到着までの経過

※到着後モニタリング実施

施設等名称	人数	当所 到着時間	測 定 終了時間	出発時間	施 設 到着時間	搬送方法 担 当	適 用
浪江町職員	3		// 7:00				
ドービル双 葉	58		// 9:18				
オンフル 双葉	5		// 13:30		19:05頃 20:00過	輸送バス 自衛隊	
双葉病院	9		// 13:30				
小高赤坂病院	161		// 20:30				
内 患者 66 職員 20 訳 警察 75							
浪江町一般	15		// 22:30				

6 避難者が保健福祉事務所出発からいわき光洋高校に収容されるまでの経緯

相双保健福祉事務所出発 (14:00頃) → R114 → 高速東北道 (西IC)
 → 高速磐越道 (いわき中央IC) → バイパス → いわき光洋高校到着
 → 到着時に高校長、事務長から会津中央病院に行くようになった。取りもついでいるので行ってもらえないかと話があったが、燃料がないことを理由に自衛隊から断られた。
 → 校長が県の防災本部に電話連絡し協議したところ開成病院 (いわき市) で引き取るので搬送するよう連絡があった。
 → 開成病院に向かったところ、事務長からスタッフは提供するので高校に戻るようとの指示があった。
 → いわき光洋高校の体育館に到着
 (体育館到着時まで当所職員1名が同行したが、搬送者の異常・急変については確認されなかった。患者施設側からの介助者等はいなかった。)

7 その他

当所では県防災対策本部の計画・指示により、避難者のモニタリング検査を実施している。

なお、当所からの同行者は自衛隊からの要請により、いわき市内の目的地までの道案内として同行した者である。

別添5

避難住民の死亡等について（福島第一原発）

平成23年3月16日

1 避難状況について

双葉病院の入院患者及び老人健康保健施設ドーヴィル双葉の入所者が相双保健所所（南相馬市）でのサーベイを受けて、いわき光洋高校の体育館に3月14日搬送された。

同校の校長が体育館を訪問してみると、寝たきり等の要介護者に対して、医師、看護師等の医療従事者が付き添っていないことを不審に思い、ラジオ（コミュニティFM）でその状況を訴えたとともに、県いわき地方災対本部に搬送先がどうなっているのか確認した。

当該ラジオを聞いた鹿島病院の看護師2人が同校体育館に来てみると、重症患者等に対してカルテもない状態に驚いた。

3月15日午前、患者等のトリアージを行い、県立医大に20人、県立会津に20人、竹田総合病院に15人、会津西病院に25人の合計80人をそれぞれ搬送した。（常磐交通バス：県立医大1台、会津方面2台）。

なお、依然として、同校体育館に53人（要介護者33人（双葉ドーヴィル）、20人（双葉病院）の受け入れ先の決まっていない患者等がおり、鹿島病院いわき本部の事務4人とボランティアの看護師（鹿島病院）2人で世話をしている。

このうち、搬送直前まで酸素吸入や点滴をされていたと思われる患者等が10人ばかり、また、危ない状態の患者等が4～5人はいる。

2 患者等の死亡について

前記のような状態の中で、少なくとも搬送中に10人、15日3時30分に1人、16日0時30分に1人の合計12人が亡くなっている。

どうしてこのような状態で搬送されてきたのか疑問であり、双葉病院等のスタッフについては全員先に避難したと思われる。亡くなった人の一部については、死亡診断書を医師が書いています。

なお、亡くなられた人については、1階にパーテーションをつけて安置している状況。

※ 連絡者 相双保健所 笹原副所長